

令和6年3月4日

保護者の皆様 地域の皆様

仙台市立南吉成小学校
校長 黒川利香

令和5年度 協働型学校評価 報告

学校の森の紅梅が花開く頃となりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、本年度、取り組んできた「協働型学校評価」について、結果がまとまりましたので、御報告いたします。

皆様には、取組はもちろん12月に行った評価アンケートへの御協力をいただき、ありがとうございます。本報告に目を通すことで、南吉成小学校の子供たちの姿を知っていただきたく存じます。その上で、更なる子供たちの成長のために、学校・家庭・地域が、それぞれの立場でできることに一緒に取り組んでまいりたいと思います。未来を担う子供たちのために、これからも御支援御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

協働型学校評価重点目標

人との関わりを大切にし、相手のことを考えて行動できる児童の育成

- ◎挨拶を丁寧に行い、あたたかな言葉を使っている。
- 相手の話を最後まで聞き、自分の気持ちや考えを伝えようとしている。
- 友達のよいところを見付け、困っている友達に声を掛けたり手伝ったりしている。
- ※「挨拶」について、「よくできた」「できた」の評価が、80%以上になることを目指す。

上記の到達状況を、児童、保護者、職員、地域の方へのアンケートにより把握し、今後の目標や取組に反映していけるように、結果をまとめました。



1 結果

(1) アンケート項目の回答

①挨拶、気持ちを伝える、あたたかな言葉、について

No.	質問	評価者	評価 (%)				とても	まあまあ	あまり	まったく	とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく					
1	「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」などの挨拶を丁寧に行っている	児童	50	45	6	0					○
		保護者	32	61	7	0					○
		地域	52	43	5	0					○
		職員	25	71	4	0					○
2	「ありがとう」「ごめんなさい」の気持ちを伝えている	児童	61	34	5	0					○
		保護者	35	50	14	0					○
		地域	32	47	21	0					△
		職員	33	67	0	0					○
3	友達を「さん」「くん」をつけて呼んだり「温かな言葉」をつかったりしている	児童	43	41	14	4					○
		保護者	36	54	10	0					○
		地域	30	50	20	0					○
		職員	21	63	17	0					○

ほとんどが80%に到達しており、良好な結果となっています。「挨拶」については、児童の90%以上が良く評価しており、意識して取り組み、自信がついてきていることがうかがえます。このグラフからは分かりませんが「言葉」については、高学年になるほど「とても」と答えた児童の割合が低くなる傾向が見られました。

②話を最後まで聞くことについて

No.	質問	評価者	評価 (%)				とても	まあまあ	あまり	まったく	とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく					
4	相手の話を最後まで聞いている	児童	63	32	5	0					○
		保護者	25	57	17	2					○
		地域	32	58	11	0					○
		職員	13	50	38	0					△

児童の90%以上が良く評価をしています。しかし、教員からは63%に留まっており、更に伸ばしたい力となっています。授業中もさることながら、学校生活全般において丁寧に育んでいきたいと思えます。

③友達への声掛け、友達のよさについて

No.	質問	評価者	評価 (%)				とても	まあまあ	あまり	まったく	とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく					
5	困っている友達に声を掛けたり手伝ったりしている	児童	58	33	9	1					○
		保護者	40	51	9	0					○
		地域	44	44	11	6					○
		職員	63	38	0	0					○
6	友達のよいところを見つけている	児童	49	41	10	1					○
		保護者	42	53	4	0					○
		地域	18	65	18	0					○
		職員	42	58	0	0					○

いずれも80%に到達しており、良好な結果となっています。引き続き、周囲の児童の努力している姿や長所、人を思いやる姿を適時紹介し気付かせ、自分を見詰め振り返る機会等を設けていきます。

☆以下は、重点目標に間接的に関わる項目です。

④役割について

No.	質問	評価者	評価 (%)				とても	まあまあ	あまり	まったく	とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく					
7	家庭で役割を果たしている(児童・保護者)	児童	48	33	16	5					○
		保護者	31	34	16	1					△
	地域で役割を果たしている(地域・学校で役割を果たしている(職員))	地域	37	53	5	5					○
		職員	21	79	0	0					○

全体として良好な結果です。学校では、委員会活動やクラスの係活動等で、一人一人がしっかりと役割を果たしています。ただし、保護者の方からの評価が65%に留まりました。折を見て、家族の一員として何ができるのかを話し合ってみてはいかがでしょうか。

⑤学習について

No.	質問	評価者	評価 (%)				とても	まあまあ	あまり	まったく	とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく					
8	家庭で進んで勉強している(児童・保護者) 学校で進んで勉強している(職員)	児童	44	37	15	5					○
		保護者	28	45	23	4					△
		職員	21	71	4	4					○

児童の評価が81%、保護者の評価が73%と、やや差が見られました。学校では、児童は落ち着いて学習に取り組み、課題にも各自がそれぞれ取り組んでいます。保護者の方からすると、もう少し自分から取り組んでほしいということでしょうか。

⑥家庭生活について

No.	質問	評価者	評価 (%)				とても	まあまあ	あまり	まったく	とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく					
9	早寝早起きをしている	児童	41	35	11	7					△
		保護者	34	40	22	4					△
10	朝ご飯を食べている	児童	82	10	2	0					○
		保護者	81	15	4	0					○

「早寝早起き」の児童の評価が76%、保護者の方からの評価が74%に留まりました。「睡眠時間を整える」ことは、とても大切で、生活全般の礎となります。是非、発達段階相応の睡眠時間が取れるように、御配慮をお願いします。

⑦保護者自身について

No.	質問	評価者	評価 (%)				とても	まあまあ	あまり	まったく	とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく					
11	心にゆとりを持って、子供の思いを受け止めている	保護者	8	71	19	1					△
12	子供と向き合う時間を確保し、会話を増やしている	保護者	17	66	16	0					△
13	子供と一緒にノーメディアチャレンジデーに取り組んでいる	保護者	12	24	43	21					△

日々お忙しい中、意識して取り組んでいただき、感謝いたします。

⑧地域の方自身について

No.	質問	評価者	評価 (%)				とても	まあまあ	あまり	まったく	とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく					
14	地域で会った子供たちと挨拶を交わしている	地域	68	32	0	0					△
15	子供たちに地域行事への参加を呼び掛けている	地域	43	29	14	14					△

インフルエンザやコロナの流行等に御配慮いただきながら、御尽力をいただき、感謝いたします。

⑨職員自身について

No.	質問	評価者	評価 (%)				評価の目盛			
			とても	まあまあ	あまり	まったく	とても	まあ	まあ	8割以上
15	子供たちに地域行事への参加を呼び掛けている	地域	43	29	14	14				
16	道徳や学級の時間を通して「相手のことを感んがえて行動する」ことについて考えを深めさせている	職員	39	57	4	0				
17	日常的に自分たちの姿を振り返ることを通して、目標を意識させるとともに取組への意欲を持たせている	職員	26	65	9	0				
18	学び合う授業づくりを通して、人との関わり方について学ばせるとともに人と関わることのよさを実感させている	職員	43	52	4	0				

引き続き、子供たちの健やかな成長のため、努めてまいります。

(2) 主な自由記述

○保護者の皆様から

- ・挨拶や、気持ちはちゃんと伝えようという話は常にしています。また、自分がされて嫌なことは相手にもしない、ということも小さいときから話しています。
- ・挨拶について、反抗期もあり、家族間で心配な場面もあるが、必要なときは家族以外の方には、しっかり対応を変えることができているので、親としては納得している。
- ・SNSなどで学んだ言葉を使うことが増えている。そのとき、「言葉を言い換えてみて」と言っても話せない。正しい言葉、その意味を分かった上で使うよう指導している。
- ・ノーマディアを意識するようになりました。おかげさまで図書館に行く習慣が付き、週末に友達と公園で遊んだり、静かに読書したりと、落ち着いた時間が増えました。これからも大切にしたい習慣だと思います。
- ・子供と向き合える行事や話す機会があるといいですね。(行事を踏まえて、家庭で会話できることが大切とは考えています。)
- ・出前講座が楽しいと話しており、机上の学習とは違った学びがあるようです。専門の話、プロの話は、説得力があり、子供たちの興味や関心につながっており、すばらしい企画だと思います。

○地域の皆様から

- ・小学校に行くと、いつも児童のみなさんに「こんにちは」と声を掛けられて、うれしい気持ちになります。
- ・朝の登校時、交差点で声掛けをするが、反応する元気が少ない子が多い。
- ・挨拶は大人から！と思っています。地域で会ったとき、とても元気よく挨拶してくれますので、声掛けして良かったし、うれしく思っています。
- ・大人側が率先して辛抱強く行うことですね。「さん」「くん」について、できているお子さんと、もう少しというお子さんの二通りに分かれていると感じる。自然に「さん・くん」が言えるようになるといいですね。(大人側は、さん・くんづけをしていると思います。)
- ・毎年の事ですが、少しずつ前に進む事が大切だと感じています。受け止め方も人それぞれ異なりますし、子としてみれば充分だと思います。
- ・子供たちの未来のために、激動する社会を生き抜けるように、学校・家庭・地域が大きく関わっていきたくと思う。

2 今後の取組

(1) 学校評価反省会(職員)、南吉成学校運営協議会から

① 挨拶について

児童会のあいさつ運動等に活発に取り組み、4月より挨拶ができる子供たちは、確実に増えている。しかし、中には自分から挨拶することが苦手な子供や、知っている人にはできるが関わりが少ない人に対しては難しい子供もいる。そこで、あいさつ運動等の実施方法を工夫し、上学年の姿から下学年が学び、具体的な目当てを持って取り組み、自信が培われていけるよう支援していく。

② 関わりについて

級友のことを理解し、認め合っている子供たちである。また、友達が困っていることに気付いたら、声を掛ける優しさが育っている。お互いに助け合い、ほかの子の意見を受け入れることもできている。しかし、相手への配慮が不足し思ったことをストレートに伝えてしまい、トラブルになることがある。また、相手との距離が近いほど、言葉が荒くなってしまうこともあり、その都度指導してきた。引き続き、児童会活動や道徳の学習等を通し、相手を思いやり豊かに関わられるよう支援していく。また、場に応じた言葉遣いについても、校外学習や、外部講師を招いた機会を活用し学べるよう配慮していく。